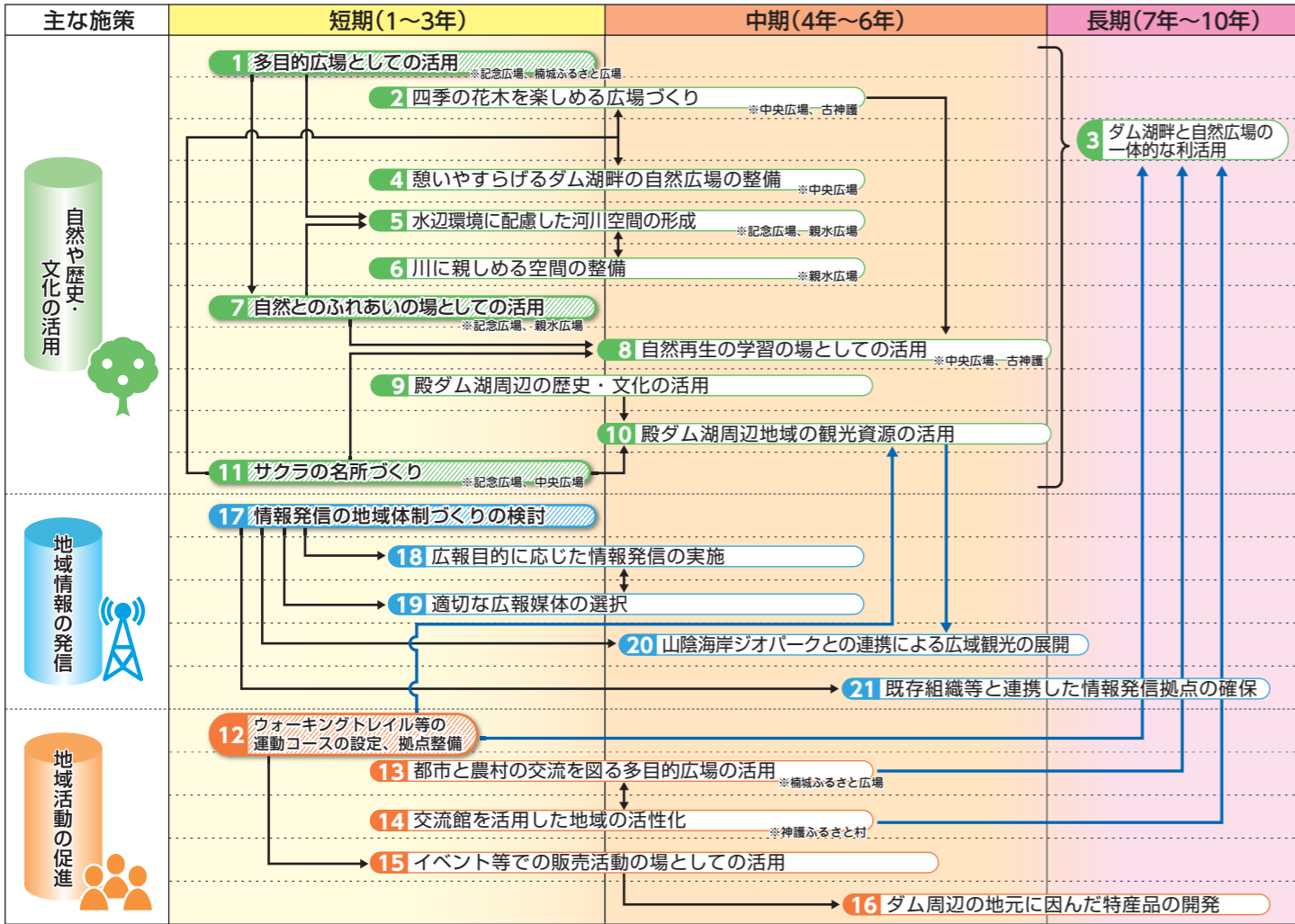


行動施策メニューについては、ダム湖の周辺整備の進捗状況に合わせて、無理なく、着実に実行できる施策から段階的に取り組んでいくことが重要です。行動計画の実施時期は、短期(1年～3年)、中期(4年～6年)、長期(7年～10年)の大きく3つの時期を目安に、早期に取り組みが可能なメニューから順次取り組んでいくことが望まれます。行動施策メニューの実施スケジュール(案)を以下に示します。



殿ダム水源地域ビジョン

(概要版)

万葉の歴史と自然の恵みに誘われる
因幡のふるさと文化圏づくり



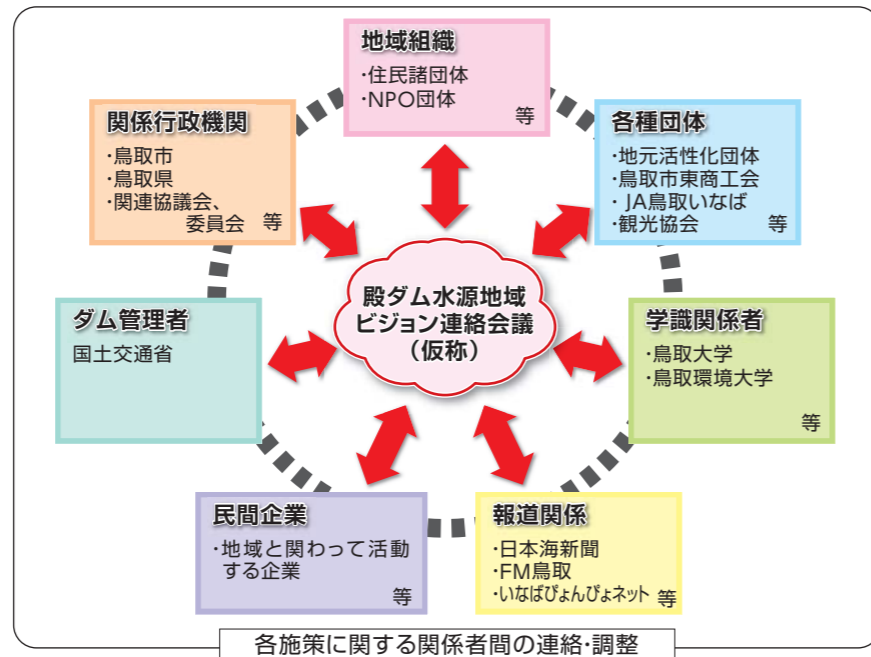
ビジョンの体制

殿ダム水源地域ビジョンを推進していくためには、殿ダムの利活用に関連する各種団体・組織と行政との連携が必要です。関係者間の役割分担や連携を円滑に進めていくための核となる『殿ダム水源地域ビジョン連絡会議(仮称)』を設置し取り組むことが重要です。

以下に示す活動を通じて、継続的なフォローアップを行っていきます。

主な活動内容(案)

- ①ビジョンの具体化に向けた意見交換
- ②各種行動施策の実施状況の確認と情報共有
- ③活動の評価や支援策等に関する意見交換



お問い合わせ先
殿ダム水源地域ビジョン策定委員会

住所: 〒000-0000
●●●市●●●町●●●00丁目00番地00号
TEL: 000-000-0000 FAX: 000-000-0000
URL: http://www.*****
殿ダム 検索

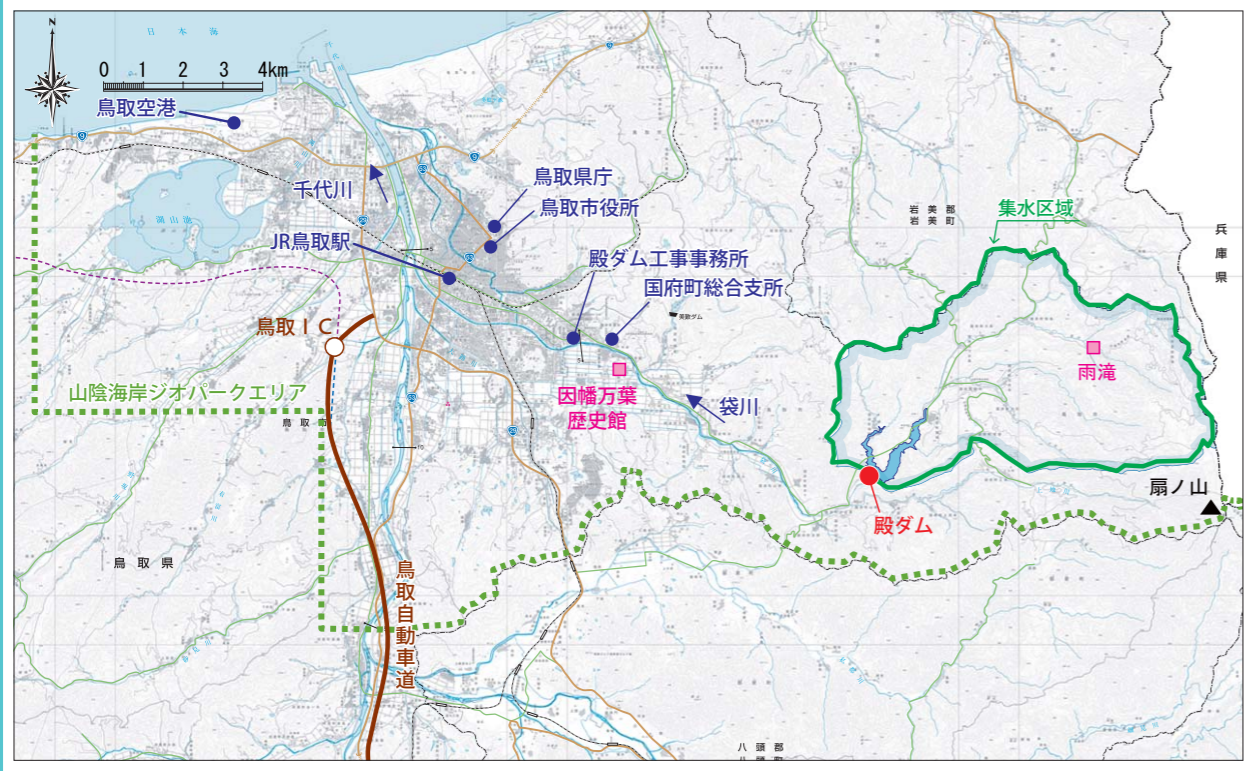
◆ 殿ダム水源地域の概況

☞ 殿ダム水源地域の現状

鳥取市域の9割を占める中山間地域は、人口減少、少子高齢化、過疎化が進行しています。一方、生活スタイルの多様化や個人の価値観の変化に伴い、郷土の歴史・文化や豊かな自然に恵まれた中山間地域は、生きる力や人間力を育む機会を提供する体験の場等として、新たな価値観を育む地域として期待されています。

殿ダムは、鳥取市国府町殿地先にて建設中の多目的ダムであり、一級河川千代川・袋川流域の洪水や濁水被害の軽減ならびに水資源開発を目的に平成23年度に完成予定です。この殿ダムによって、鳥取市街地を中心とした地域の安全や発展、中山間地域が抱える諸課題の解決などに大きな期待が寄せられています。

殿ダムの位置図



◆ 殿ダム水源地域ビジョンとは?

☞ 殿ダム水源地域ビジョンの背景

殿ダム水源地域には、日本の滝百選の「雨滝」や河合谷高原などを有し、山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアに含まれるなど、豊かな自然環境を有しています。

また、水源地域の鳥取市国府町は、その昔因幡の国府が置かれ、政治・経済・文化の中心として栄えてきた地域であり、万葉集の伴家持に因んだ歌碑等、往時の文化を伝える遺跡も残されています。

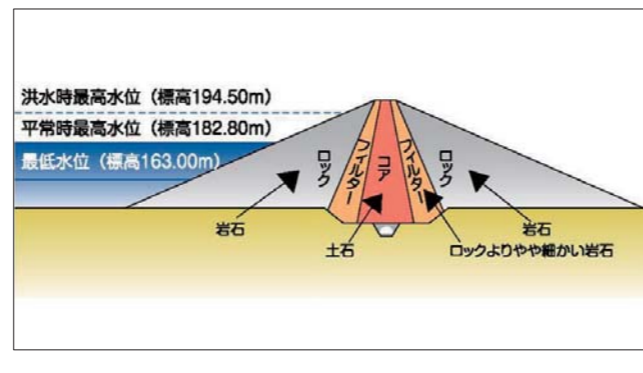
水源地域の活性化については、平成18年に「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生21プラン」が策定され、殿ダム周辺整備の方向性が打ち出されています。

☞ 殿ダム水源地域ビジョンの概要

殿ダム水源地域ビジョンは、こうした水源地域の自然環境や歴史・文化を保全・活用しながら、地域の実情に応じて、水源地域である鳥取市国府町の大茅・成器地区の自立的・持続的な活性化はもとより、広く鳥取市全域の幅広いニーズに応える殿ダム湖周辺の利活用についてとりまとめたものです。

殿ダムあれこれ

殿ダムは、ダム高75m、堤頂長294mのロックフィルダムです。ダムの高さは鳥取県内で最も高く、ダムの貯水容量は1,240万m³で、東京ドームの約10個分となります。



殿ダム水源地域ビジョンにおいて、直ちにビジョンの実現に向けた活動を開始し、行動計画を具体化していくことが必要です。このため、行動計画として掲げた施策から、先行して実施するアクションプランを設定しています。

アクションプランでは、ダム湖周辺の拠点広場の整備等により比較的早期に対応可能な施策や、イベント等の実施により計画の早期定着が期待される施策等を優先的に実施し、それぞれの行動施策メニューに展開していきます。

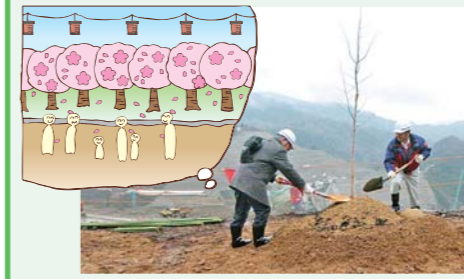
1 多目的広場としての活用

ダム湖周辺の自然景観を活かした眺望スペースの充実を図るとともに、ハイキングや花見等、はだしでも遊べる多目的なレクリエーション広場の確保を目指します。



11 サクラの名所づくり

市民との協働植樹等により、多種のサクラが楽しめる名所づくりを目指します。また、紅葉等の植栽も順次行い、四季の花木通じて自然と親しめる「憩い、やすらぎの空間」としての充実を図っていきます。

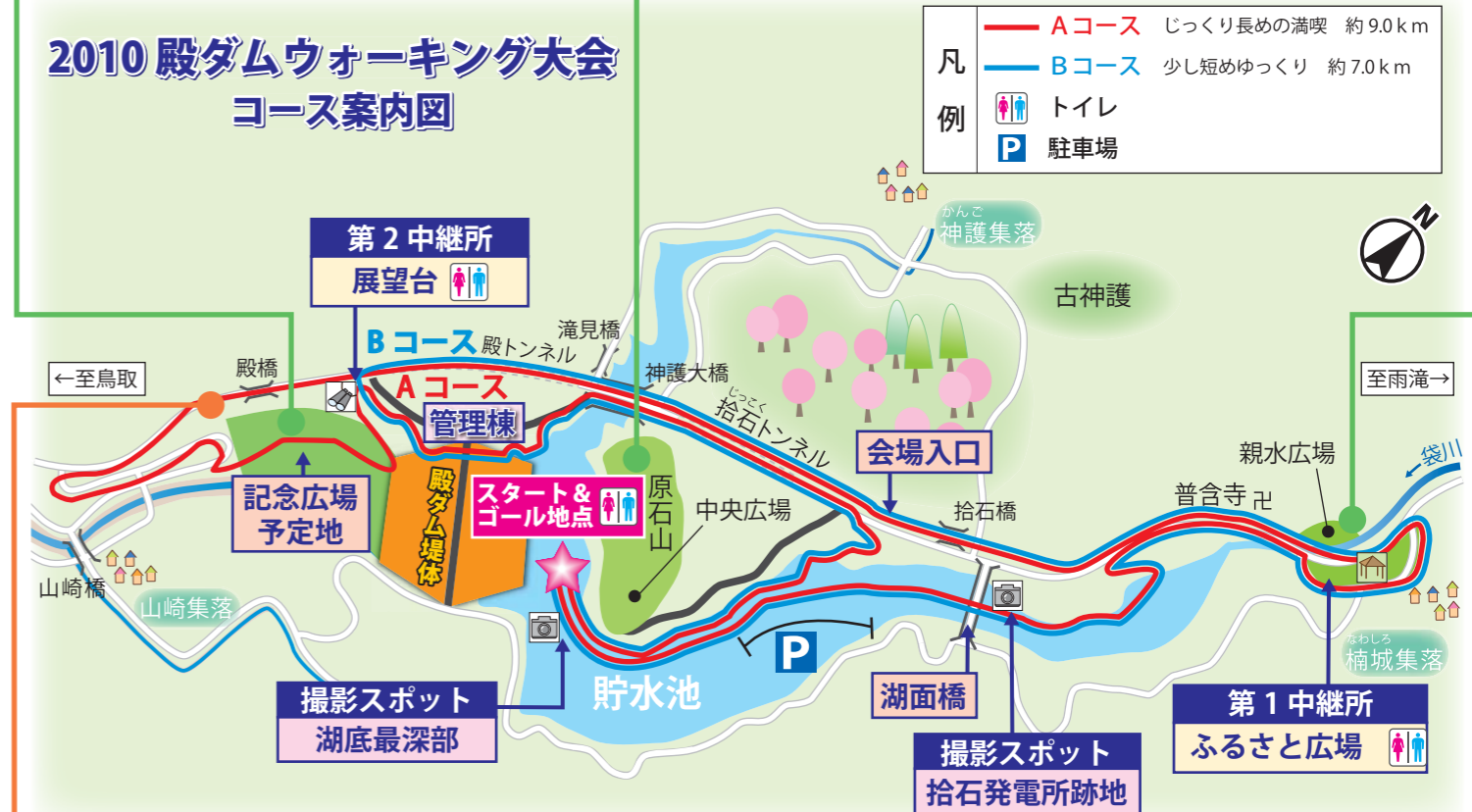


7 水生生物とのふれあいの場としての活用

自然観察会等で利用できる観察スペースを充実を図るとともに、水生生物の観察(魚しらべ、水生生物による水質の簡易調査等)や野鳥観察(四季の野鳥観察、ダム湖の野鳥等)、中国地方最大の高さを誇るロックフィルダム堤体の見学等の環境学習プログラムを作成していきます。



2010 殿ダムウォーキング大会 コース案内図



12 ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備

毎年実施している「殿ダムウォーキング大会」の定例化を図るとともに、多様な利用ニーズに対応したウォーキングコースを設定し、殿ダム湖周辺と袋川流域の自然環境、景観の魅力を満喫できる活用メニューとしての充実を図っていきます。



17 情報発信の地域体制づくりの検討

因幡万葉歴史館で開催されている『万葉集朗唱の会』などの各種のイベントで、「殿ダムパネル展」等を開催し、殿ダムや周辺地域に関わる情報発信の試行を行います。これら広報活動の実践を通じて、情報発信の地域体制を確保していくための検討を進めていきます。



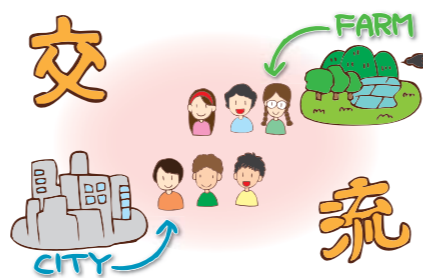
12 ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備

ダム湖周辺地域や袋川流域全体など、ウォーキングやその他スポーツの魅力あるコース設定と、それに合わせた拠点の整備により活用が図れます。



13 都市と農村の交流を図る多目的広場の活用

都市と農村との交流の場として、多目的広場の活用を図ることで、地域活動の促進を図れます。



14 交流館を活用した地域の活性化

貴重な茅葺き屋根のある交流館を活用し、都市住民の山村暮らし体験等を行うことで、地域の活性化が図れます。



15 イベント等での販売活動の場としての活用

来訪者が集まるイベント等で地元特産品の販売活動を行い、都市住民と地元住民、上下流域の住民間の交流等の促進が図れます。



16 ダム周辺の地域に因んだ特産品の開発

ダム湖周辺の自然環境や歴史・文化に因んだ新しい特産品の開発を行うことで地域の活性化が図れます。



殿ダム周辺地図



目標と基本方針

殿ダム水源地域ビジョンは、地域住民のみならず鳥取市の広範な人々の理解や共感を得ながら、多くの人々の参加によって万葉の時代から育まれてきた因幡の自然と文化を活かした地域づくりに取り組むものです。

以下に示す目標と基本方針を掲げ、殿ダム周辺整備（ハード施策）と連携し推進していくことが重要です。

殿ダム水源地域ビジョンの目標(ソフト施策)

多くの人々の参加によって地域づくりに取り組むものとし、ワークショップでの意見を踏まえて、目標および4つの切り口の基本方針を掲げます。

殿ダム水源地域ビジョンの目標

万葉の歴史と自然の恵みに誘われる因幡のふるさと文化圏づくり

- 1 **きらめき**:自然の恵みを楽しむ
殿ダム湖とその周辺の自然環境の保全と活用
- 2 **いとなみ**:じげの暮らしを楽しむ
大茅・成器の宝を磨いて地域生活の魅力を提供
- 3 **いざない**:郷土の語らいを広げる
殿ダムの観光や特産品の魅力の紹介と発信
- 4 **つながり**:殿ダムの上下流の交流を深める
鳥取市全体による殿ダム活用の基盤づくり

殿ダム周辺整備の基本方針(ハード施策 鳥取市)

水源地域の振興、交流の促進につなげることを目的とし、「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生21プラン」を踏まえて、以下の基本方針を掲げています。

- 1 殿ダム周辺の自然環境の保全と再生を基本として景観に配慮した環境づくりを進める
- 2 殿ダム及びダム湖を拠点として地域資源を活かしたシンボル空間を創出する
- 3 ダム湖出現による新たな緑水空間が市民のレクリエーション需要に応え、かつ水源地域の振興や都市交流につながる

整備方針

「憩い、やすらぎの空間」を基本として、ダム湖が創り出す自然環境、景観を活かした整備



17 情報発信の地域体制づくりの検討

情報発信の目的、情報発信の内容、使用する媒体、情報発信の拠点などについて検討し、情報発信を担当できる人材育成や、既存の組織・団体と連携した情報発信の地域体制の構築により、市民への周知が図れます。



18 広報目的に応じた情報発信の実施

情報発信の目的毎に対応した情報を組み合わせることで、より効果的に市民への周知が図れます。

- a イベント b ダム関わる歴史 c 自然
- d 地域社会 e 従来からの既存資源
- f 新しく創出する場所 g ライブ情報
- h ダムと川の安全 i アクセス情報

19 適切な広報媒体の選択

情報に適った媒体として、イベント等についてはHPや鳥取市報等の広報誌、ダムに関わる歴史等については、鳥取県の社会教育等の利用の検討により、市民への周知が図れます。



20 山陰海岸ジオパークとの連携による広域観光の展開

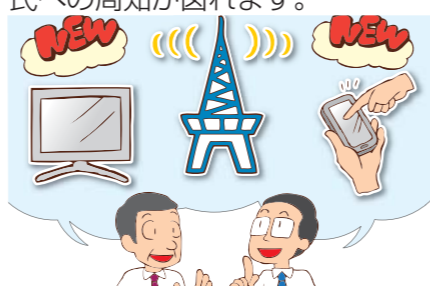
ダム上流域の山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアと連携していくことで、広域観光の積極的な展開を図ることができます。

エリアガイド

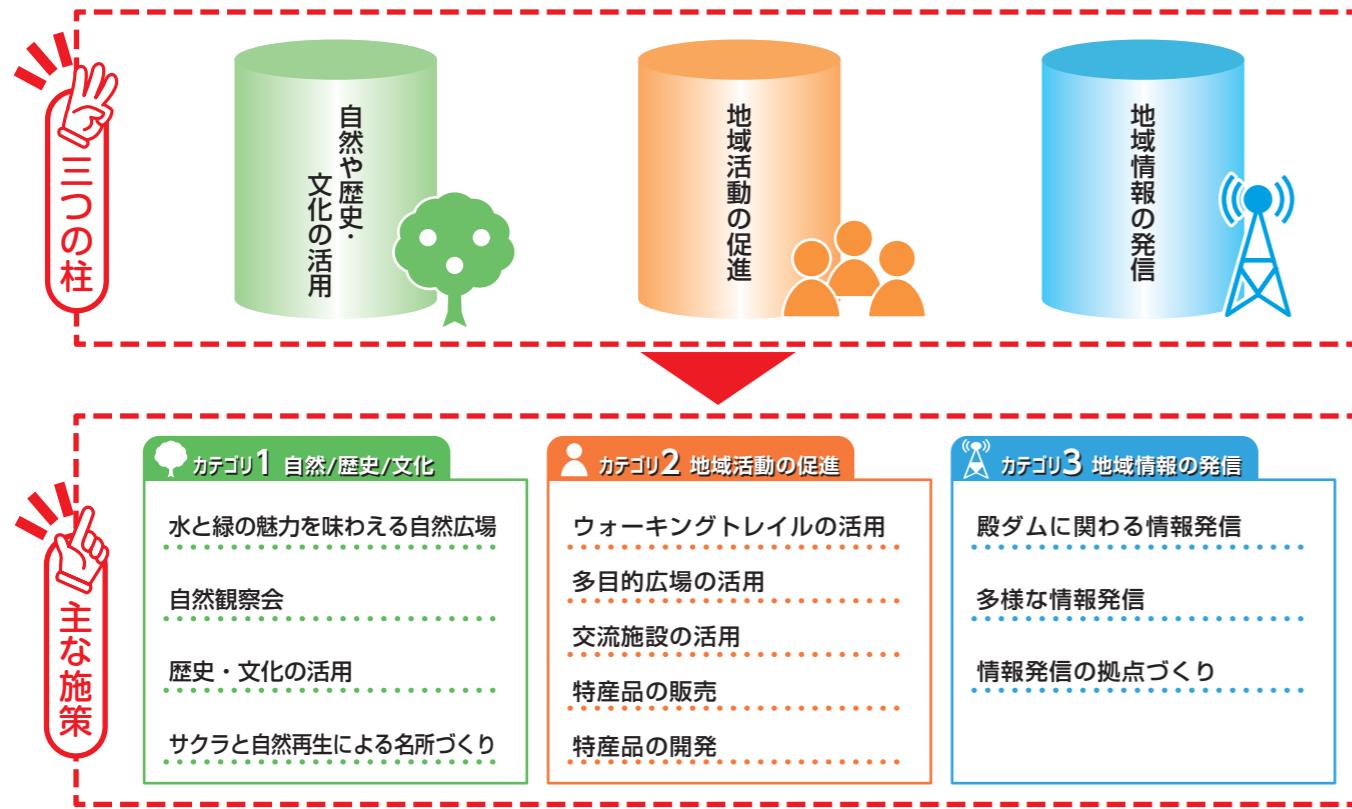


21 既存組織等と連携した情報発信拠点の確保

既存の組織と連携した情報発信の拠点づくりを行うことで、殿ダムや水源地域の魅力等、多くの市民への周知が図れます。



殿ダム水源地域ビジョンの目標と基本理念に基づく行動計画は、「自然や歴史・文化の活用」、「地域活動の促進」、「地域情報の発信」の3つの柱(視点)を掲げ、具体的な施策を設定しています。



カテゴリ1 自然/歴史/文化

※➡ このマークが付いているものは、P6で施策の具体的な内容を紹介しています。

1 多目的広場としての活用 ※➡

因幡全体や県内外からの広域の利用を想定した憩いの多目的広場としての整備により活用が図れます。



2 四季の花木を楽しむ広場づくり

市民との協働による植栽を行い、四季の花木を楽しむ緑豊かな広場として活用が図れます。



3 ダム湖畔と自然広場の一体的な利活用

ダム堤体直下 ~ ダム天端 ~ 上流湖面橋を結ぶ動線を活用し、自然広場との一体的な利活用が図れます。

それぞれの良さを花үүл



4 憩いやすらげるダム湖畔の自然広場の整備

ダム湖畔の景観に配慮し、湖面と自然環境の中で憩いやすらぎの場となる広場の整備により活用が図れます。



5 水辺環境に配慮した河川空間の形成

水辺と自然とのふれあいのため、水辺に近づきやすい護岸形状を工夫するなど環境に配慮した河川空間の形成により活用が図れます。



6 川に親しめる空間の整備

河川を活用した溪流釣りが楽しめる場など、川に親しむことが出来る空間の整備により活用が図れます。



7 自然とのふれあいの場としての活用 ※➡

水生生物の自然観察会や野鳥の観察会など、周辺地域の小学校等で実施している生物とのふれあいの場としての活用が図れます。



8 自然再生の学習の場としての活用

自生種による生態系修復として広葉樹の植樹を行うことで、自然再生の学習の場としての活用が図れます。



9 殿ダム湖周辺の歴史・文化の活用

地元のガイドクラブなど、観光ボランティア組織と連携した殿ダム湖周辺の歴史・文化の勉強会の実施等により、地域ガイドの育成が図れます。



10 殿ダム湖周辺地域の観光資源の活用

殿ダム湖周辺地域の名所の案内として、ウォーキングトレイル計画と連携したマップの作成、ダム湖周辺での観光名所の案内板の設置等の推進により活用が図れます。



11 サクラの名所づくり ※➡

ヤマザクラの試験植樹や市民との協働による植栽により、サクラの名所としての活用が図れます。

